

# 資料をご覧の皆さまへ

## 〈これまでの取り組み〉

2019年度～2021年度に、文部科学省委託事業「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」（略称：AG5）の協力校として、日本人学校等の関係機関と連携した特別支援教育に係る遠隔支援コンサルテーションに取り組んで参りました。

## 〈2022度からの取り組み〉

そして2022年度からは、AG5の後継事業となる文部科学省委託事業「在外教育施設の重点支援プラン」の協力校として取り組んで参ります。複数の研究計画のうち、本校は「日本人学校におけるICTを活用したインクルーシブ教育」への協力を行います。

## 〈本資料について〉

本資料は、2024年2月17日（土）にオンラインで開催された「遠隔支援コンサルテーション・事業報告会」の報告資料となります。

## 〈お願い〉

本資料は本校の昨年度の実践報告のために作成しています。質疑等については、原則としてお受けしておりません。ご了承ください。

# 2024年度の実践一覧

	日時(日本時間)	テーマ
1	7月10日(月)~ 7月11日(火)	韓国・ソウル日本人学校への現地訪問
2	10月13日(金) 15:45~	ソウル日本人学校との 遠隔支援コンサルテーション①
3	12月21日(木) 15:45~	ソウル日本人学校との 遠隔支援コンサルテーション②
4	2月17日(土)	2024年度 事業報告会

2023年度 遠隔支援コンサルテーション

ソウル日本人学校-筑波大学附属大塚特別支援学校

# 事業報告会・資料

2024年2月17日(土)

各校15分程度のうち担当5分

筑波大学附属大塚特別支援学校

(担当：佐藤義竹)

## 本資料の構成

(1) 現地での交流

(2) 連絡調整窓口

(3) コンサルテーションを通して(個人の振り返り)

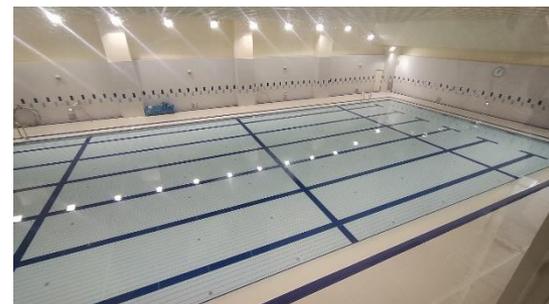
(4) 今後に向けて

※本資料は「2023年度遠隔支援コンサルテーションに関する報告書」→  
「5. 専門員からの遠隔支援コンサルテーションについての報告」をもとに作成しています。

# (1) 現地での交流

ソウル日本人学校との連携初年度でしたが、7月に現地訪問を行い施設見学や職員との直接交流を図れたことで、その後の遠隔コンサルテーションも**具体的なイメージ**のもと進めることができました。学校周辺の環境、校内の施設設備、**教室環境**などを事前に見学できることは、その後のコンサルテーションでも有益であることを実感しています。

今後、多地域の日本人学校に広げていく場合、現地訪問が難しい状況もあると思われます。その際は、学校要覧等の共有や施設設備も含めた視覚情報(動画・静止画)の提供・活用等についても具体的な手立てになるように感じました。



## (2) 連絡調整窓口

ソウル日本人学校の連絡窓口として職員を割り当てていただいたおかげで、**連絡調整**が行いやすく、コンサルテーション当日に向けた準備も円滑に進めることができました。

校内の調整も担っていただいていたので、一つの日本人学校内における**情報共有**や**調整の手続き**なども実践例としてまとめることで、これから新たにコンサルテーションへの取り組みを検討している他の学校の参考になるものと思われました。



### (3) コンサルテーションを通して

対象の幼児・児童への相談支援を中心に進めましたが、日本人学校の先生方のニーズに沿ったフィードバックが出来たかどうかについて、私自身がしっかりと振り返りを行うようにしたいと思います。

特定の行動問題への関わり方なのか、対象の子ども全体像を踏まえた支援計画等の作成に向けた話なのか、**問題の所在**がどこにあるのかを見定めた上で、コンサルテーションを行うことの重要性を感じました。

これについては、支援シートの提供を受けた上で、より細部の情報が必要な時は再度確認をしたり、調整段階で問題の所在を双方で明らかにしたりするなど、現在のシステムで十分対応できると思うので、次年度以降の実践に繋げるようにしたいと思います。



## (4) 今後に向けて

日本人学校に於じて、校内研修に近い内容から個別の支援事例に関する相談支援まで、実際のケースは多岐に渡ります。当該の学校・職員を中心に、有益な遠隔支援コンサルテーションになることを第一に進めることが重要なので、日本人学校内で柔軟にニーズの抽出・選定を行っていただければと思います。

また、日本人学校の先生方は他の校務も並行する中での実施になるので、コンサルテーションに同席する教員の数や規模などは、当該校にとって無理のないものにしていただくよう、引き続き年度初めの説明などで共有することも重要であると思いました。

